

## 1. 背景とねらい

「あおり16(商標:恋空)」は8月上旬に収穫できる着色、食味とも良好な極早生品種で、平成26年度に県推奨品種(試作品種)に選定されました。しかし、「あおり16」は果実内部の成熟より果皮の着色が先行することから、収穫適期を着色で判断すると未熟果が収穫されることが懸念されます。そこで、「あおり16」の満開後日数と果実品質の関係と官能評価により本県での収穫基準を明らかにしました。



## 2. 成果の内容

### (1) 満開後日数及び地色と果実品質

満開後日数と糖度、酸度の関係では、2013年、2014年の両年とも満開後日数が進むと糖度は上昇傾向が見られました。2013年の97日後は糖度が低く、また2014年の96日後は酸度が高く、食味は不良でしたが、いずれの年も満開101日以降では糖度と酸度のバランスが良くなりました(表1)。地色との関係では、地色指数が進んだものほどデンプン指数、硬度は低くなりました(図1)。

表1 満開後日数と糖度、酸度

年次	満開後日数(日)	糖度(Brix%)	酸度(%)
2013	97	11.5 ± 0.49 <sup>z</sup>	0.23 ± 0.02
	101~107	12.3 ± 0.19	0.22 ± 0.02
2014	96	13.4 ± 0.16	0.39 ± 0.02
	101~104	13.8 ± 0.16	0.28 ± 0.02

<sup>z</sup>標準偏差(n=2~5)

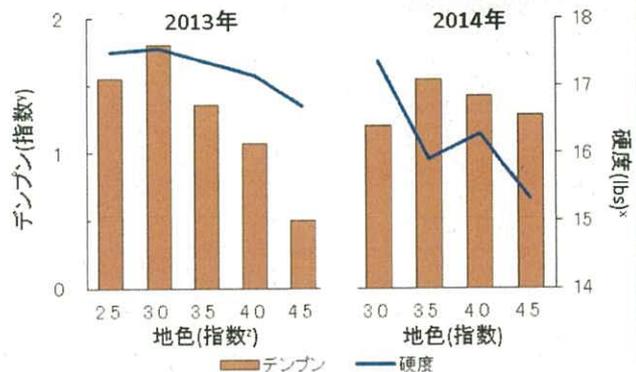


図1 満開101日以降の地色とデンプン指数、硬度  
<sup>y</sup>「王林」用地色カラーチャートによる評価  
<sup>x</sup>ヨード反応により、0(完全消失)~5(全面着色)の6段階評価  
<sup>\*</sup>マグネステラー式(7/16インチ)による測定

### (2) 官能評価

一般消費者による官能評価調査の結果、2013年の97日後と2014年の96日後の果実は「未熟感」をやや感じると評価されました。また、2013年の満開101~107日後の果実において、地色指数2.5の果実は「未熟感」をやや感じ、地色指数4.5の果実は「歯ごたえ」が軟らかいと評価されました。「食味」については両年とも101日後以降の地色指数3.5で評価が高く、それ以外でも良い評価をいただきました(表2)。

以上、満開後日数及び地色と果実品質との関係、官能評価調査の結果より、「あおり16」の収穫適期は満開101日後以降の地色指数3.0~4.0であると考えられました(図2)。

表2 「あおり16」の満開後日数と地色別の官能評価<sup>z</sup>

年次	満開後日数	97日		101~107日				
		地色(指数) <sup>y</sup>	2.5	3.0	2.5	3.0	3.5	4.0
2013年	未熟感 <sup>x</sup>		やや感じる	あまり感じない				
	歯ごたえ <sup>w</sup>		良い	軟らかい				
	食味 <sup>v</sup>		まあまあおいしい	おいしい				
年次	満開後日数	96日		101~104日				
		地色(指数)	2.5	3.0	3.5	4.0	4.5	
2014年	未熟感		やや感じる	あまり感じない				
	歯ごたえ		良い	良い				
	食味		まあまあおいしい	おいしい				

<sup>z</sup>官能評価:20人程度の一般消費者へのアンケート調査による

<sup>y</sup>「王林」用地色カラーチャートによる評価

<sup>x</sup>未熟感 1:なし、2:やや感じる、3:感じる

<sup>w</sup>歯ごたえ 1:硬い、2:普通、3:軟らかい、4:粉質化

<sup>v</sup>食味 1:おいしくない、2:あまりおいしくない、3:まあまあおいしい、4:おいしい、5:とてもおいしい



図2 収穫適期の「あおり16」(地色指数4.0)

## 3. 成果の活用

「あおり16」は、これまで需要の少なかった時期(8月上旬)に収穫できる赤色が鮮やかでおいしいリンゴであることから、リンゴの収穫、販売期間の拡大と新たな需要の創出が期待されます。